

2012 年度

# 授業についての 満足度調査

## **ASSESSMENT OF STUDENT SATISFACTION**

The Student Satisfaction Survey is a tool to improve the quality of students life and their learning through measurement of their satisfaction with courses they have taken.

**Shjonawate Gakuen Junior College**

## 「授業についての満足度調査」について

2012年度の「授業についての満足度調査」は例年と同じく年初1月に3学科・1コース(\*)の1、2年次生を対象に実施した。2010年度また2011年度と同じく調査手段は主に携帯電話、補完的に学内のパソコンとした。調査結果についても、2010年度、2011年度と同じ体裁でとりまとめを行った。

(\*)本年度からライデザイン総合学科「総合福祉コース」が開設されたので1コース増えている。

昨年度に続き、3年度分のデータがすべて揃ったが、本年度は2010年度、2011年度、2012年度のデータを掲載し、入学年度別での比較、また同一入学年度でも1年次と2年次間の比較が行えるようになっている。繰り返しとはなるが、本満足度調査は個々の授業毎の満足度を調査するものではなく、学科毎に授業全体についての満足度を調査するもので、これと合わせて「自分自身についての授業取り組みについての自己評価」、「学習成果についての自己評価」も調査対象とし、最終的に学生生活全体に関する満足度も問う形としている。

一昨年度から始めた視覚的に結果を把握できるグラフ方式を踏襲し、上記の3項目ごとにFD委員会のコメントを付し、その上で各学科長のコメントを掲載しているので、本報告書を是非ご一読頂きたい。

また、調査結果については、費用や手間も勘案し、昨年度と同じく冊子の配布に替えてファイル形式での配信（UNIPAでの掲示）とさせて頂くこととした。悪しからずご了承頂きたい。

FD委員長  
奥田 純

### 調査目的

1. 授業への満足度を測定する。
2. 学生の授業への取り組みについて自己評価を測定する。
3. 学習の成果について満足度を評定する。

以上の3点を調査することにより、各学科と学年において、満足度が充足できている点とできていない点を明確化し、翌年度の授業改善への一助とする。

### 調査期間

2013年1月下旬

調査回答者数	2012年度入学生	2011年度入学生
保育学科	77	41
ライフデザイン総合学科	40	41
介護福祉学科・「総合福祉コース」	20	15

注: 2012年度より「総合福祉コース」が開設され、2012年度生は同コースに、2011年度生は介護福祉学科に所属する。

### 調査項目

授業への満足度を測定する7項目、学生の授業への取り組み姿勢を測定する5項目、学習の成果について学生の満足度を測定する4項目を使用した。  
評定は、“満足～不満”、“そう思う～そう思わない”の5段階で評定を求めた(調査項目は、結果を参照)。

### 調査方法

必修授業終了後や試験終了後の時間を利用して集団で実施した。またライフデザイン総合学科の2年生に関しては、時間割上全員が一斉に集まる機会がなかったため、受講者数が多い授業を選んで実施した。さらにUNIPAを通じて全学生にアンケートへの協力を求めた。尚、アンケートは従来と同じく無記名で実施した。

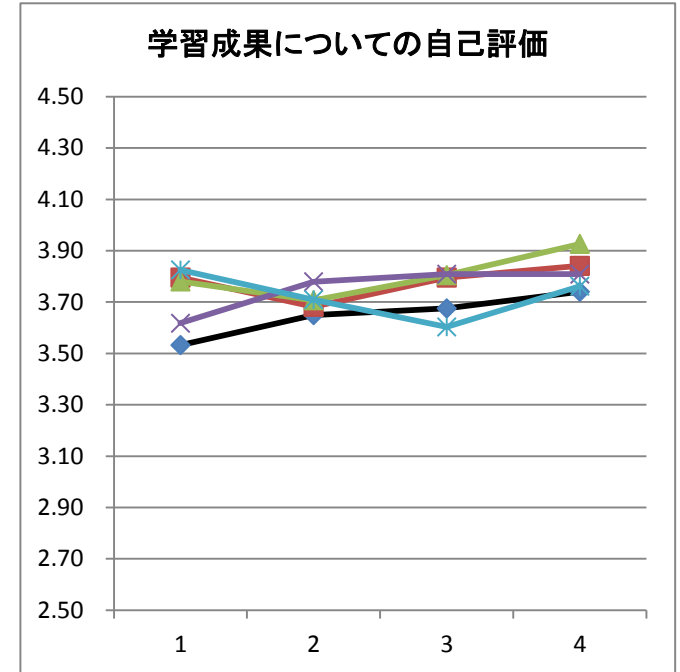
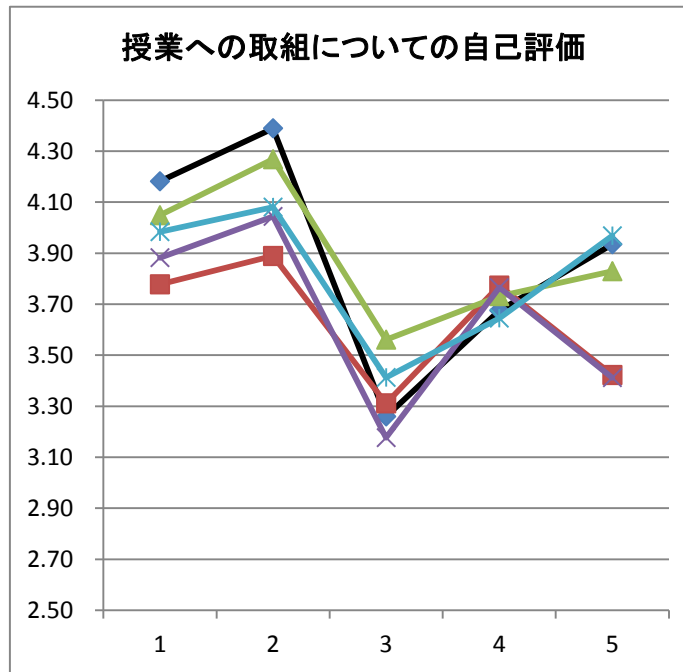
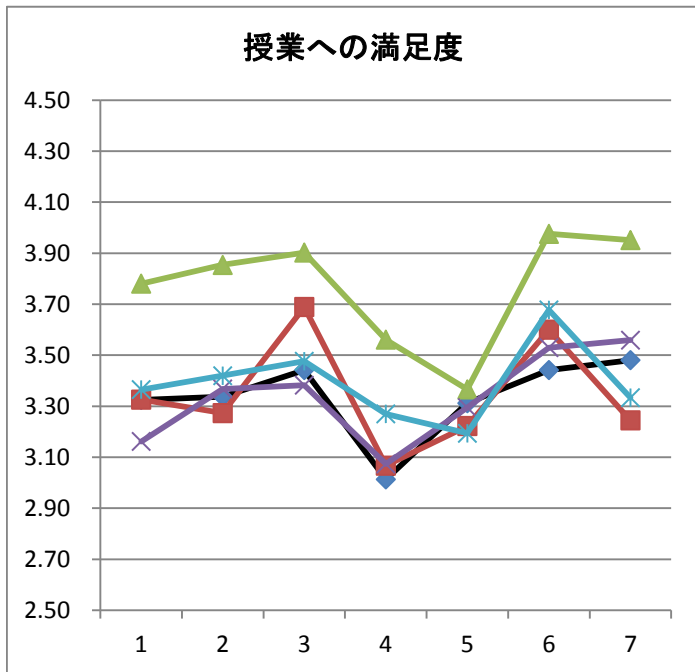
### 結果のデータ処理

“満足～不満”、“そう思う～そう思わない”をそれぞれ“5～1”と得点化し、各項目の評定値の平均値を学科および学年ごとに算出した。

保育学科 満足度調査結果		2012年度	2011年度		2010年度	
		入学生	入学生	入学生	入学生	入学生
調査対象者数		77	44	41	68	62
項目番号	1 授業内容のわかりやすさ 2 授業の質(短大生として満足できる内容であったか) 3 教員とのコミュニケーション(質問への応答、学習や課題への助言など) 4 授業の人為的環境(迷惑な授業態度や私語への注意・座席への配慮など) 5 授業の物理的環境(教室のサイズ・施設・設備の充実度など) 6 将来のキャリア(就職など)計画に対する授業内容の有効性 7 教育課程(カリキュラム)の充実度(受講したい授業科目が多く開講されているか)	実施時期				
		2012年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度
	平均	3.34	3.35	3.77	3.34	3.39
項目番号	1 授業には、よく出席した 2 授業には遅刻しないように気をつけた 3 授業中は居眠りや私語などせず、授業に集中した 4 授業時間外の課題には真剣に取り組んだ 5 試験勉強には真剣に取り組んだ	実施時期				
		2012年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度
	平均	3.89	3.63	3.89	3.66	3.82
項目番号	1 教養や知性が身についたと思いますか 2 専門的能力(資格取得を含む)が身についたと思いますか 3 社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身についたと思いますか 4 人間的にも成長できたと思いますか	実施時期				
		2012年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度
	平均	3.65	3.78	3.80	3.75	3.73
項目番号	1 総合的判断 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2011年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度
	総合的判断	3.35	3.44	3.80	3.35	3.62

学科長のコメント (満足度調査の結果と今後の改善について)	
<p>1. 本学での授業に関する満足度            本項目に関する総合的評価の平均値は、入学年度、学年を問わず3(どちらでもない)の方に近い数値で推移している。唯一2011年度生において1年生よりも2年生の方が満足度が上がっているが、この場合も4(やや満足)には達していない。これらより、授業全般についての学生の満足度は良くも悪くもなく「普通」程度なのだと解釈することが出来る。資格取得のための必修科目が多く、実習や、実技授業で課せられる多くの課題をひっくるめての授業全般に対する評価なので、何処に焦点をあてて評価しているのかが分かりにくい。全体的な満足度をもっと上げるためには、本結果を踏まえて、個々の授業担当者が、学生の期待に応えられるように更なる努力を重ねることが必要と思われる。特に、7項目中最も満足度が低い「4.人為的環境」についてのより厳しいご対応をお願いしたい。</p> <p>2. 授業への取り組み姿勢に対する自己評価            本項目に対する総合的評価の平均値は、入学年度、学年を問わず総じて自己評価はほぼ4(ややそう思う)前後で推移している。項目別では、「1.授業には良く出席した」、「2.遅刻しないように気をつけた」が特に高く、次いで「4.課題への取り組み」、「5.試験勉強」への自己評価も比較的高く、総合的に真面目に努力していると自分自身を評価している。しかし「3.授業中の居眠りや私語」に対する自己評価は低く、自身の授業態度についての反省的姿勢も伺える。前項の授業に対する満足度は、学生の授業への取り組み姿勢の適否とも連動していると思われるので、私語や迷惑な授業態度には厳しい姿勢で臨み、授業に集中するように自覚を促し、人為的環境を整えて授業に臨むことが、ひいては満足度の向上につながると思われる。</p> <p>3. 学習成果に対する自己評価            保育学科の場合、専門的学習は段階的に進行していくものであるため、本来、1年生よりも2年生の方が自己評価がアップしていなければならないはずである。しかし本結果では、何れの入学年度においても、1年生と卒業目前の2年生間の自己評価に殆ど差が見られず、目的学科として重く受け止めなくてはならない結果となっている。本調査からは、このような結果をもたらした背景を明らかにすることは出来ないが、2年間の様々な場面を通して、学生が自らの成長を自覚し、自信をもって巣立ってくれるような指導体制をより充実させて教育成果を高めていく必要がある。</p> <p>4. 学生生活に対する総合的判断            入学年度を問わず1年生の時の評価は3.35～3.44と3(どちらともいえない)に近く、総合的に見て満足度が高いとはいえない。2010年度入学生も、2011年度入学生も1年生の時よりも2年生の方が満足度がアップしているが、何れの場合も4(やや満足)には達しておらず、2年間の教育成果としては満足の出来る結果とはいえない。本調査では、この結果をもたらした背景を解明することが出来ない。具体的に満足度のレベルアップを図る方策を示すことは難しいが、この結果を踏まえて、学生生活に関わるさまざまな場面での指導、教育により力を入れていきたい。</p>	

数値は各項目とも平均値。



◆ 2012年度入学生1年次   
 ■ 2011年度入学生1年次   
 ▲ 2011年度入学生2年次   
 × 2010年度入学生1年次   
 ★ 2010年度入学生2年次

- ・2011年度生は1年次と比べ2年次にすべての項目で満足度が向上しており、かつ向上幅が大きい。
- ・1年次より2年次にかけて満足度が向上しているのは2010年度生でも見られるが、2011年度生については格段に満足度が上がっている。
- ・2012年度生は2010年度生の1年次と全項目についてほぼ同水準の満足度を示している。どの

- ・2011年度生は2年次になって#4(時間外の課題への取組)以外で自己評価が大幅に上昇している。
- ・2010年度生でも1年次から2年次にかけて同じ傾向が見られたが、2011年度生の方が顕著な上昇がみられる。
- ・2012年度生は出欠(含む遅刻)、試験勉強への取組に関して自己評価が2011年度生、2010年度生に比べて極めて高い。(きちんと出席し、遅刻もしない)

- ・学習成果についての自己評価は左記の授業への満足度、授業への自己の取り組みというカテゴリーに比べて、項目間の差が小さく、総じて評価が高いのが大きな特徴でこの傾向は変わっていない。
- ・2011年度生は1年次と2年次とでほとんど差がなく、#4(人間的成長)の評価が若干上昇。
- ・2012年度生は学習成果については2011年度生、2010年度生に比べて自己評価が低い。

#### 総合的判断

・2011年度生は、2010年度生と同じく2年次になって満足度が向上しているが、上昇幅が大きく満足度の水準でも高くなっている。2012年度生は満足度の水準では2011年度生1年次より低いが、2010年度生1年次とは同水準にある。

## ライフデザイン総合学科 満足度調査結果

	2012年度入学生	2011年度入学生		2010年度入学生	
	1年次	1年次	2年次	1年次	2年次
調査対象者数	40	59	41	79	34

### 学科長のコメント (満足度調査の結果と今後の改善について)

項目番号	本学での授業に関する各項目について、あなたの満足度をお答え下さい。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2012年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度
1	授業内容のわかりやすさ	3.48	3.55	4.49	3.11	3.77
2	授業の質(短大生として満足できる内容であったか)	3.48	3.66	4.46	3.22	3.89
3	教員とのコミュニケーション(質問への応答、学習や課題への助言など)	3.48	3.80	4.39	3.25	4.14
4	授業の人為的環境(迷惑な授業態度や私語への注意・座席への配慮など)	3.40	3.57	4.17	3.15	3.83
5	授業の物理的環境(教室のサイズ・施設・設備の充実度など)	3.10	3.35	3.90	2.86	3.26
6	将来のキャリア(就職など)計画に対する授業内容の有効性	3.18	3.35	3.85	3.04	3.17
7	教育課程(カリキュラム)の充実度(受講したい授業科目が多く開講されているか)	3.55	3.70	4.20	3.19	3.57
平均		3.38	3.57	4.21	3.12	3.66

◆「すべての項目」に関する結果について:2010年度入学生および2011年度入学生、共に1年次の満足度より2年次の満足度の方が高くなっている(ただし、2010年度入学生については1項目のみ満足度はほんの少し下がっている)。このことは、1年経つとなりたい自分がよりはっきりして、興味ある授業を学んでいることを意味していると考えられる。5段階評価で4が“やや満足”、3が“どちらともいえない”ことより、3.5以上を“まあ満足”と考えると、2011年度入学生は1年次での二つの項目のみ3.35だが、他はすべて3.5以上である。このことは、2011年度入学生はまあ満足した学生生活であったと考えられる。

項目番号	本学での授業への取り組みについてあなた自身を自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)	実施時期				
		2012年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度
1	授業には、よく出席した	3.78	3.90	4.12	3.95	4.00
2	授業には遅刻しないように気をつけた	4.03	4.07	4.22	4.27	4.34
3	授業中は居眠りや私語などせず、授業に集中した	3.58	3.80	4.12	3.32	3.66
4	授業時間外の課題には真剣に取り組んだ	3.43	3.83	3.95	3.38	3.43
5	試験勉強には真剣に取り組んだ	3.45	3.72	4.12	3.39	3.54
平均		3.65	3.86	4.10	3.66	3.79

◆「授業への満足度」に関する結果について:項目5および6についてはいずれの時点でも満足度がガクンと下がっている。このことは、一部教室をのぞいて椅子の硬さ・冷たさおよび建物の内装が古くなっていて建物の内部環境の整備が必要であることを示していると考えられる。また、短大は2年間ということと考慮すると、入学早々就職(もっと広いいわゆる就業力)について、授業としての取組み(学ばなくてはならない環境設定)が必要であると考えられる。なぜか2011年度入学生について、項目1の満足度が1年次3.55から2年次4.49へと飛躍的に上がっている。その理由はわからない。

項目番号	あなたは、本学での2年間でどの程度の学習成果が身についたと思いますか。自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)	実施時期				
		2012年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度
1	教養や知性が身についたと思いますか	3.35	3.83	4.10	3.37	3.63
2	専門的能力(資格取得を含む)が身についたと思いますか	3.55	3.80	4.27	3.38	3.59
3	社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身についたと思いますか	3.60	3.82	4.07	3.39	3.31
4	人間的にも成長できたと思いますか	3.45	3.68	4.02	3.19	3.34
平均		3.49	3.78	4.12	3.33	3.47

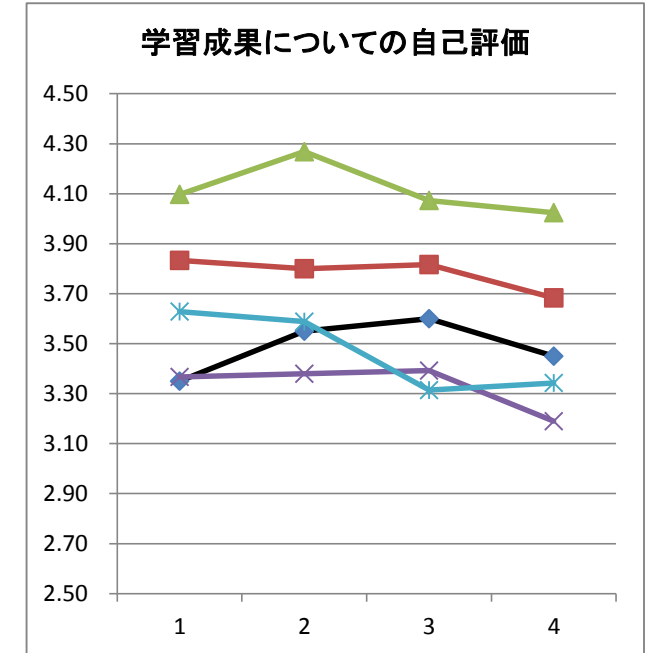
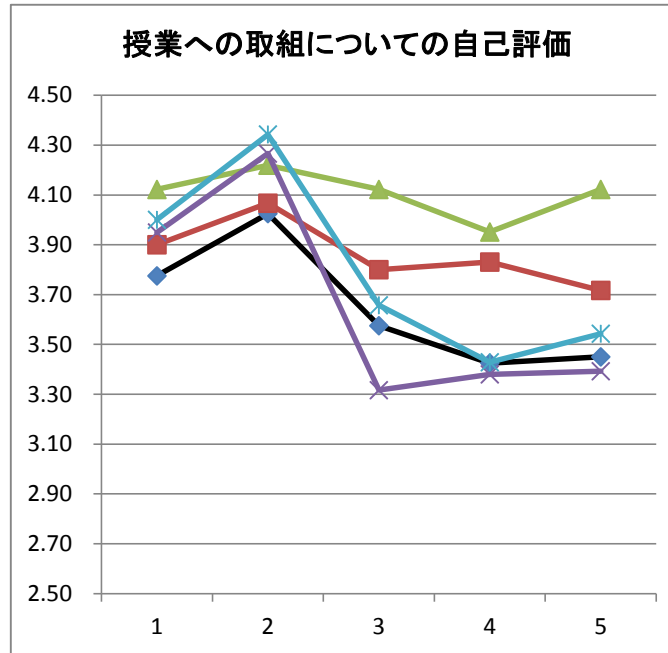
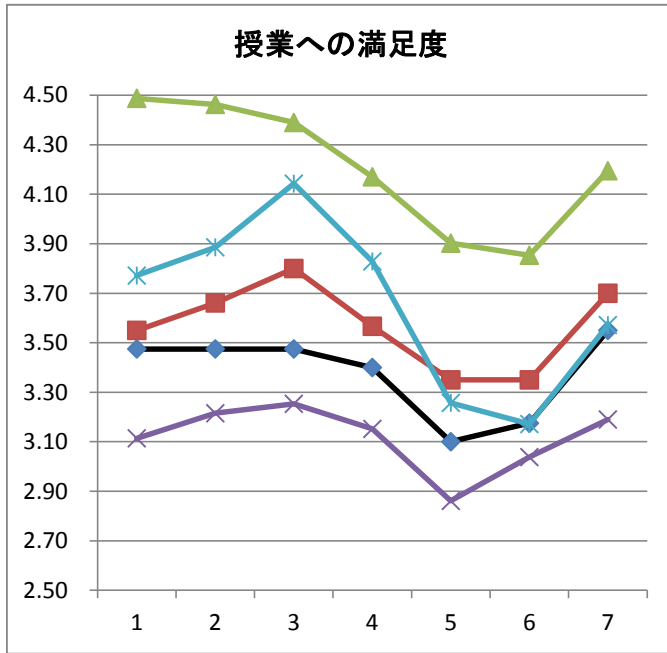
◆「授業への取組についての自己評価」に関する結果について:すべての時点で項目2は4以上の満足度である。このことは、学生は遅刻しないように努力していると考えられる。遅刻はなくならないあ、と実感することを考えあわせると、遅刻する学生は少数で同じ学生であるといえる。項目1についてもほぼ同じ事がいえる。項目4についてはその標準偏差の値を考えあわせると、授業以外には学習していない学生が多いことがわかる。

◆「学習成果についての自己評価」に関する結果について:3.5以上を“まあ満足”と考え、2010年度入学生は1年次・2年次どの時点でも“どちらかという不満”であったと考えられる。それに比べて2011年度入学生は1年次で“まあ満足”、2年次で“満足”であったと考えられる。

項目番号	あなたは本学での学生生活を総合的に判断して、どれくらい満足していますか。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2012年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度
1	総合的判断	3.48	3.82	4.22	3.14	3.63

◆今後の改善について:建物の外装は近年された。今後は、より明るく・キレイに感じるような内装が必要である。2013年度よりカリキュラムに《キャリア教育フィールド》を設置する。1年次よりキャリア教育の授業を置き2科目必修とし、2科目は必修扱いとして学生に履修することを強く勧める。遅刻をよくする学生を特定し忍耐強く『遅刻しないこと』を全教員で指導する。すべての項目で“まあ満足”となることを目標とする。

数値は各項目とも平均値。



◆ 2012年度入学生1年次   
 ■ 2011年度入学生1年次   
 ▲ 2011年度入学生2年次   
 × 2010年度入学生1年次   
 ◆ 2010年度入学生2年次

・2011年度生は1年次るときから満足度が高かったが、2年次に満足度が一層大幅に上昇し、満足度水準としてもかなりのレベルに達している。  
 ・2012年度生は2011年度生の1年次より満足度がすべての項目について低い。ただし、2010年度生の1年次よりは評価は良い。  
 ・項目別では、#5の物理的環境と#6の将来のキャリア計画に対する有効性の満足度が低い。

・2011年度生は2年次の自己評価が1年次より全項目について向上している。特に授業への集中、時間外の課題への取組、試験準備について自己評価が向上し、水準的にも高い。  
 ・2012年度生は2011年度生1年次に比べて自己評価は総じて低い水準にあり、授業への集中、時間外の課題への取組、そして試験準備とについて自己評価について顕著。ただし、2010年度生の1年次よ

・2011年度生は2年次になって1年次よりすべての項目について評価が上昇。1年次でも評価水準が高かったが、2年次の評価水準はかなり高い。  
 ・2012年度生は#1(教養が身に着いた)では2010年度生1年次と同じ水準だが、それ以外では高い水準だが、2011年度生の1年次よりは全項目について低い。

#### 総合的判断

・2011年度生は総合的な満足度でも2年次になって向上し、1年次の水準自体が高かったこともあり、かなりの高水準に達している。2012年度生については満足度は2011年度生1年次と2010年度1年次との中間にほぼ位置している。

介護福祉学科・「総合福祉コース」 満足度調査結果		2012年度	2011年度		2010年度	
		入学生	入学生	入学生	入学生	入学生
調査対象者数		1年次	1年次	2年次	1年次	2年次
		20	18	15	28	18

学科長のコメント (満足度調査の結果と今後の改善について)
----------------------------------

項目番号	本学での授業に関する各項目について、あなたの満足度をお答え下さい。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2012年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度
1	授業内容のわかりやすさ	3.55	3.39	3.33	3.46	3.95
2	授業の質(短大生として満足できる内容であったか)	3.30	3.67	3.20	3.54	3.84
3	教員とのコミュニケーション(質問への応答、学習や課題への助言など)	3.60	3.61	3.67	3.82	3.84
4	授業の人為的環境(迷惑な授業態度や私語への注意・座席への配慮など)	3.10	3.67	3.33	3.11	3.47
5	授業の物理的環境(教室のサイズ・施設・設備の充実度など)	3.40	3.72	3.60	3.79	3.89
6	将来のキャリア(就職など)計画に対する授業内容の有効性	3.60	3.67	3.47	3.61	4.06
7	教育課程(カリキュラム)の充実度(受講したい授業科目が多く開講されているか)	3.20	3.61	3.13	3.71	3.68
平均		3.39	3.62	3.39	3.58	3.82

授業に関する学生自身の満足度について共通に言えることは、1・2年次生ともに平均が同ポイントになっている。しかし、2年次生をみると3.62から3.39へと0.23ポイント低下している。このことは、専門科目の講義の多くが1年次に集中しているため、2年次に選択科目が多いことが要因となっていると考えられる。また、項目4に関して前年度より低くなっているため、精査が必要と考える。

授業への学生自身の取り組みについては、教員全員が意思統一を図り、同じ対応で当たった結果と推測できるので、今後も同様の対応を心がけたい。

本学での2年間でどの程度の学習成果が身についたと思いますかという問いに対しては、例年通りのポイントとなっている。これに関しては、例年2年次生になるとポイントが上昇の傾向をたどっているため、これに甘んじることなく個々の教員の責務を果たしてゆかなければならないと考えている。

またこれらのことが、学生自身が本学での学生生活を総合的に判断した結果に通じ、2012年度入学生の4.0ポイントが過去と比較しても高い数値になっており、学生の一応の満足を得られていると考えられるため、今後も学生一人ひとりのニーズや将来への課題に対するきめ細やかな対応が一層必要と考える。

項目番号	本学での授業への取り組みについてあなた自身を自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)	実施時期				
		2012年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度
1	授業には、よく出席した	4.00	3.44	3.53	4.04	4.21
2	授業には遅刻しないように気をつけた	4.20	4.11	3.80	4.36	4.05
3	授業中は居眠りや私語などせず、授業に集中した	3.75	3.50	3.33	3.82	3.53
4	授業時間外の課題には真剣に取り組んだ	3.80	3.67	3.53	3.89	3.63
5	試験勉強には真剣に取り組んだ	3.75	3.33	3.33	4.14	3.79
平均		3.90	3.61	3.51	4.05	3.84

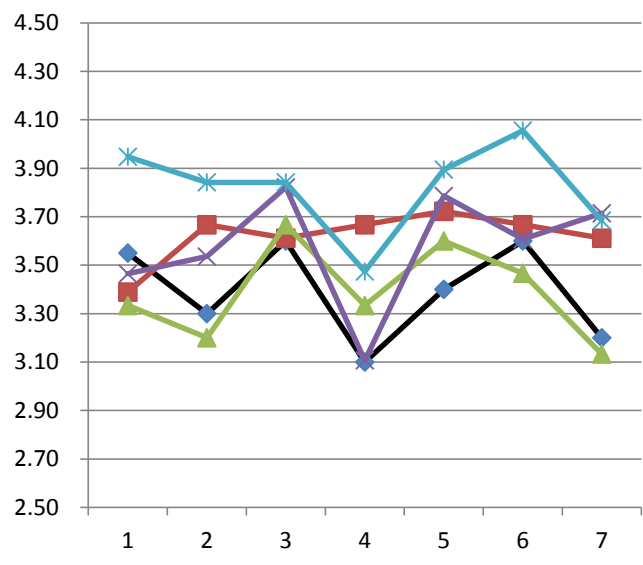
項目番号	あなたは、本学での2年間でどの程度の学習成果が身についたと思いますか。自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)	実施時期				
		2012年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度
1	教養や知性が身についたと思いますか	3.55	3.56	3.73	3.57	3.67
2	専門的能力(資格取得を含む)が身についたと思いますか	3.75	3.56	4.00	3.79	3.95
3	社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身についたと思いますか	3.50	3.67	3.40	3.68	3.58
4	人間的にも成長できたと思いますか	3.55	3.50	3.60	3.75	3.68
平均		3.59	3.57	3.68	3.70	3.72

項目番号	あなたは本学での学生生活を総合的に判断して、どれくらい満足していますか。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2012年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度
1	総合的判断	4.00	3.89	3.73	3.68	3.63

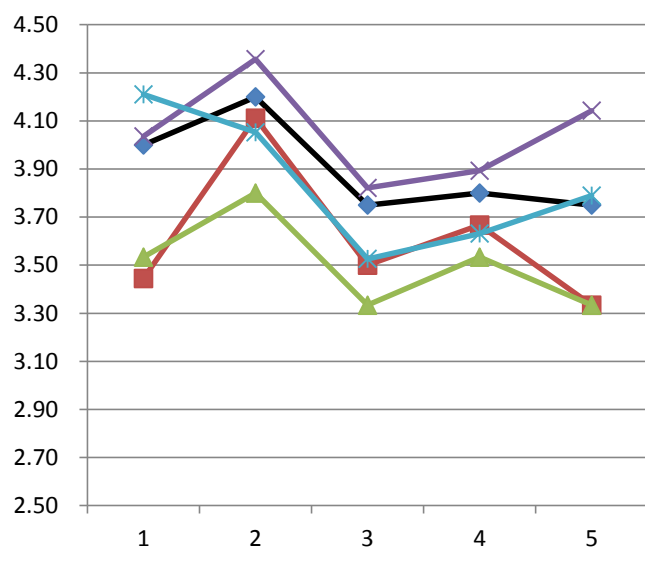
数値は各項目とも平均値。



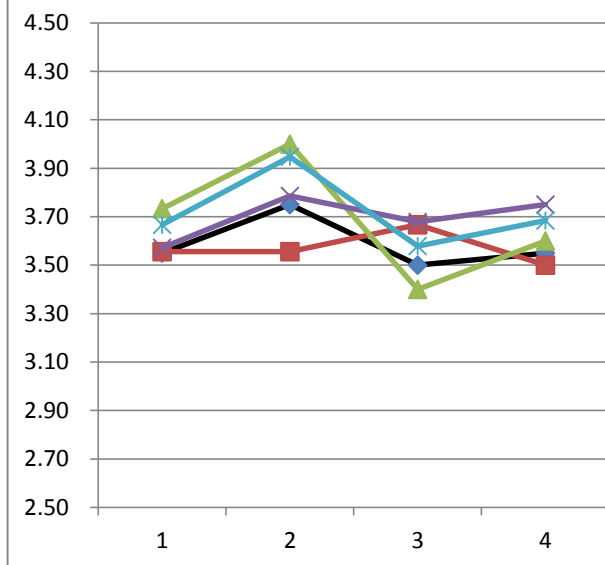
授業への満足度



授業への取組についての自己評価



学習成果についての自己評価



◆ 2012年度入学生1年次    ■ 2011年度入学生1年次    ▲ 2011年度入学生2年次    ✕ 2010年度入学生1年次    ● 2010年度入学生2年次

・2011年度生は#3(教員とのコミュニケーション)以外の項目で1年次に比べ2年次に満足度が低下している。ことに#2(授業の質)、#7(カリキュラムの充実度)に関して落ち込みが激しい。  
 ・2012年度生は、2011年度生2年次の満足度傾向とほぼ同じ傾向を示しており、満足度の水準も似通っている。

・2011年度生は、このカテゴリでも基本的に2年次の方が1年次より評価が低下している  
 ・2012年度生は2011年度生1年次より自己評価は総じて高く2010年度生とほぼ同じ傾向、評価水準を示している。因みに、2010年度1年次が今回の年度生比較の中では、自己評価水準が一番高い。

・2011年度生はこのカテゴリでは#1(教養)、ことに#2(専門知識)について1年次より学習成果は上がったとの評価となっている。ただ、#3(社会人力)は低下している。  
 ・2012年度生は項目によ凹凸はあるが2011年度生、2010年度生1年次と同じレンジ内での評価を示している。

総合的判断

・2011年度生は2010年度生と同じく2年次になって満足度が低下している。一方2012年度生は2011年度生、2010年度生のそれぞれ1年次より満足度が高い。

## 2012年度 授業についての満足度調査

©2013年3月

編集	四條畷学園短期大学 FD 委員会
委員長	奥田純
委員	石村哲代 仁平章子 石川肇
	三木大史 鍛冶谷静 北村瑞穂